

二世世代フリーペーパー『茶屋町あるきガイド』の制作



DATA

■主な連携先・メンバー

阪急阪神不動産株式会社／梅田・茶屋町地域の企業、商店等／関西大学教育後援会／関西大学総合情報学部岡田朋之ゼミ 茶屋町チーム

■活動地域

大阪市北区茶屋町

■活動期間

2018年度

■活動資金

関西大学教育後援会事業費(印刷・製本費)

活動の目的

- 1 梅田・茶屋町地域の魅力を再発見し、より親しみを持ってもらうこと
- 2 若者層とその親の二世世代でともに楽しみながら使われうる媒体の制作



連携にいたる経緯

茶屋町地域の街おこしの企画としてガイドブックの制作と配架を阪急阪神不動産に提案したところ、冊子配架先の紹介について協力を得られた。また、印刷にあたっては、新入生歓迎企画の一環として冊子配布をおこなう前提で、本学教育後援会による費用負担の協力を得られた。

活動内容

茶屋町のレストラン、カフェ、バーなど7つの店舗を紹介し、あわせて町の歴史や由来、町域を示すマップを盛り込んだA5判全28ページのフリーペーパーを作成して、阪急梅田駅周辺の大店舗、駅ターミナルの案内施設、ホテルなどで配架して頂いた。さらには4月に開催された関西大学の新生歓迎行事でも配布された。読者として想定したのは、若者世代とその母親の世代の双方である。若者世代は遊びに行く場所や食事をする場所をネットで検索することが多く、目的地までの店舗に目を向けることなく周辺の環境の変化に気付かなくなっているのでは、という問題意識のもとで、あえて紙媒体のフリーペーパーを制作し、実際に手に取って歩きながら新たな発見をしてほしいという願いが込められている。一方その母親世代に対しては、若いころ足を運んでいた茶屋町にもう一度戻ってきてもらい、昔と変わらない姿、昔と比べての変化を発見してもらいたいという思いがある。そして、それらを親子で共有できるようにという意図もあった。

活動の成果

- 1 取材対象となった店舗や配架先の施設から広く協力を得られた
- 2 連携先企業の協力によって多くの配架先を紹介頂き、広く配布することができた

今後の課題・目標

- 1 取材と制作作業に要する時間を見越した計画的なスケジュールの作成
- 2 より質の高いデザインワークを目指すため、事前のスキル向上をはかる
- 3 原稿の校正段階で重大なミスが発見されたため、校正作業を厳格化する

教員紹介



■総合情報学部 教授

岡田 朋之

Tomoyuki Okada

専門はメディア論。情報メディアの革新が人々の日常生活とどう関わっていくかについて、主にスマートフォンやSNSなどを通じたモバイルコミュニケーションの変化の側面から研究している。ゼミでは「メディアをつくる、社会を考える」をテーマに置き、メディアやイベント等の制作を踏まえて社会の問題を考察することを課している。